

令和5年度 学校経営方針

1 学校教育目標及び生徒像・教職員像・学校像

(1) 学校教育目標

豊かな心と知性をそなえ、自らの未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成

○豊かな心…命と人権を大切にし、他者を思いやる心や社会への貢献、責任感、正義感などの道徳的な価値を大切にする心や美しいものに感動する心

○豊かな知性…“21世紀を生き抜く力”として確かな基礎力（知る）・思考力（考える）・実践力（行動する）をもとにした社会の変化に対応できる汎用的な資質や能力

○たくましく生きる…夢や目標に向けて粘り強く取り組む姿勢や困難に立ち向かい挑戦する姿

(2) 育成を目指す資質・能力

◆ 育成を目指す資質・能力

「主体性」・「課題発見力」・「実行力」・「柔軟性」の育成を重視する資質・能力とし、学校全体の教育活動の中で高めることを目指す。

◆それが実現した生徒の姿

●自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。

●自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自信をもって取り組むことができる。

●自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。

★成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる。

★現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。

★課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。

◇小さな成果を喜びに感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。

◇失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さをもって、取り組むことができる。

◇強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる。

■自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感をもって受け入れることができる。

■相手がなぜそのように考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる。

■立場が異なる相手の背景や事情を理解することができる。

(●「主体性」、★「課題発見力」、◇「実行力」■「柔軟性」)

(3) 目指す生徒像

すべての教育活動を通して、「知」・「徳」・「体」をバランスよく身につけ、よりよい人生と社会を創造できる人材の育成を目指し、次のような生徒像を理想とする教育を行う。そのために、主体的・対話的で深い学びを通して、思考力を中核とし、それを支える基礎力と、使い方を方向づける実践力の向上に努め、基礎的・汎用的能力を育む。

○優しさと思いやりをもち、いのちを大切にし、互いに尊重し支え合い協力し合える生徒

○夢や目標に向けて意欲的に学び、目標達成に向けて根気よく最後まで取り組むことができる生徒

○しっかりとした規範意識を持ち、多様な人と協働することができ、集団の一員として貢献できる生徒

○心身ともに健康で、何事にも主体的に取り組める生徒

(4) 目指す教職員像

「教職員の言動そのものが教育である」という共通認識のもと、常に課題意識を持ち、各主任を中心とした組織活動及び協働によって、全校体制で創造的な教育活動を実践することが大切である。また的確な生徒理解と実態把握ならびに、機を逃さない指導を徹底するとともに、生徒に寄り添う姿勢で、適切な対応と支援（背景を踏まえた上での組織的・見通しある取組）を行う必要がある。そこで次のような教職員を目指す。

- 人間性豊かで、情熱をもって教育に当たる教職員
- 組織人としての使命感と責任感のもと、生徒一人ひとりを大切にする信頼される教職員
- 生徒の良さや可能性を引き出し伸ばすことができ、生徒に学ぶ喜びを与える教職員
- 自己を見つめることができるとともに、協調性を有し、高い専門性を求めて学び合える教職員

(5) 目指す学校像

教育目標の達成に向け、生徒一人ひとりの自己肯定感・自己有用感の向上を図りながら、小学校、地域・保護者の教育力も結集し、持続可能な社会の担い手となる人材を育成するため、様々な特色ある教育活動を推進し、次のような学校を目指す。

- 生徒にとって行きたい学校…一人ひとりが大切にされ、互いを信頼し生き生きと活動できる学校
- 保護者・地域にとって通わせたい学校
 - …秩序があり、安心安全で美しく信頼できる教職員がいる開かれた学校
- 教職員にとって充実感のある学校
 - …一人ひとりの専門性が高められ、生徒と共に学び、共に成長できる達成感のある学校

2 学校経営方針

○学校教育目標達成のため、教育課程を構成するすべての教科がそれぞれの役割を果たすと同時に、「育成を目指す資質・能力」を高めることも重視する。また、評価・改善・充実の好循環（PDCAサイクル）の展開を目指す。

○令和5年度は、「KYOTO×教育DXビジョン」に沿って、新しい時代の教育の創造に向かいながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図る。そして、そのことを通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や「カリキュラム・マネジメント」の確立を更に推進する。

○社会性の基盤となる自己指導能力の育成を目指し、自己有用感・自己肯定感の育成を柱とした積極的（開発的・予防的）生徒指導を「チーム九条中」として推進する。

○次代を担う人材の育成という崇高な営みである教育活動を実践するために、全教職員が常に自己研鑽・研修に励み、教育に携わる個人・組織としての資質・能力の向上に努めるとともに、教職員一人ひとりが自らの働き方に関する意識改革を進めながら、日々の教育活動を見直し、学校における「働き方改革」を進める。

○九条中学校ブロックの強みである小学校との連携事業をより充実させるとともに、地域コミュニティの形成や子どもを共に育む社会的風土づくりを進める。また、保護者・学校関係者評価による学校改善や家庭・地域・関係諸団体・諸機関との連携を深める。

3 学校教育の計画

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

「確かな学力」の育成を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、それを活用して思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力を育む授業改善を図る。特に「主体的・対話的で深い学び」の視点から指導法の研究・実践、工夫・改善に努めることを重点とする。そして、ねらいを明確にしたわかりやすい授業を行い、学習を通じた自己有用感・自己肯定感の向上や主体的に学習に取り組む態度も養う。

また、GIGA スクール構想の下、必要となる ICT 活用指導力の更なる向上に努める。

具体的な取組

- ① 本校で育成を目指す資質・能力のうち「主体性」・「課題発見力」を意識し、「主体的・対話的で深い学び」の視点で課題を設定し、主体的な課題解決や振り返ることでの新たな学びにつなげる学びを充実させ、やそれが実現した生徒の姿などの見取りなどをもとに授業改善を図る。
- ② 教科指導の中での言語活動の充実（記録・要約・説明・論述・発表・討論等）はもとより、行事や部活動における豊かな言語活動など、あらゆる場面で常に意識し、言語の運用能力の向上に取り組む。
- ③ 資質・能力の育成を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能の『習得』」・「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図る『活用』」・「主体的に学習に取り組む態度を養う『探究』」の機会を単元・題材等の中で構成を工夫する。
- ④ 学年・教科で連携しながら、予習・復習の意義と方法を指導し、授業と家庭学習の連動を図るとともに、課題の内容と提示方法に工夫・改善を行い、自主的な家庭学習の定着、充実を図る。
- ⑤ LD等支援の必要な生徒への指導において、総合育成支援教育への認識を深め、個に応じた適切な指導の実践を目指すとともに、ユニバーサルデザインの授業実践・学級経営・学校づくりを推進する。また、情報の共有等、全校体制で組織的、継続的な指導を行う。
- ⑥ 「探九学習（総合的な学習の時間）」と他の教科・領域を有機的につなぎ（教科等横断的視点で組み立て）、学校教育目標の具現化へ向けて組織的・計画的に取り組む。
- ⑦ GIGA スクール構想に基づきソフト等を活用し、生徒の思考・表現の共有・発展などや学習データの収集・分析・可視化などの指導も含めた ICT 活用指導力の更なる向上に努める。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

本校で育成を目指す資質・能力のうち「実行力」・「柔軟性」を意識し、全教科・全領域、あらゆる教育活動を通して「心の教育」を推進する。人権尊重の精神に基づいた教育を行い、自他を大切にす態度や公共の精神を育み、規範意識の向上や人としてよりよい生き方やあり方を追究できるよう、人権教育・道徳教育や生活指導などの工夫・充実を図る。生徒一人一人が尊重され、いじめや差別・偏見のない学校づくりを通して自己有用感・自己肯定感を高め、持続可能な社会を担うための資質・能力を育む。また、学校行事や部活動においても、協力する心や思いやりの心、責任感の育成を目指した協働的活動を展開する。

具体的な取組

- ① 命を大切にする心や他人を思いやる心、感動する心など、生徒の豊かな人間性の育成を意図した教育活動を充実させるとともに、人権尊重の精神を基盤に、互いを認め合い、励まし合う集団作りに向けた指導を徹底する。

- ② いじめはもちろん、SNSをはじめネットを介した誹謗中傷も絶対に許されない人権侵害であることを認識させる指導を徹底させるとともに、社会におけるルールや法の重要性、許されない行為についての指導を徹底し、自分で正しい判断ができるようになるための素地を育てる。
- ③ 地域をはじめ様々な人々と交流する体験活動を通して、人と人の絆の大切さを実感し、社会の一員としての公共心や公德心、生命を尊重する心や社会に主体的に参画する意識と行動力を育む。
- ④ 生徒会活動や学校行事を通して、生徒の「自主・自律・自治の力」の育成を目指した取組を推進するとともに、学級活動や学校行事、部活動、小中連携や地域との連携など、あらゆる教育活動を通して自己有用感の育成を図る。
- ⑤ 深い生徒理解を基本に、生徒一人ひとりの背景まで見据えた心の通う生徒指導を実践する。また、規律ある生活習慣やルールを守る態度などの「規範意識」や自己指導能力、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する力、あきらめずやり遂げる力の育成を図る。
- ⑥ 職場体験や高校・大学訪問などの体験学習や自己の適性や将来について考えることなどの「生き方探究（キャリア）教育」の実践を通して社会的・職業的自立に向け、自分らしい生き方を追究する生徒を育成する。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

豊かなスポーツライフや自ら進んで体力向上を図る態度・能力の育成を目指して、教科指導はもとより、体育的行事や部活動など機会をとらえた体育的活動による健康教育を行う。また、健康の保持・増進と安全に関する指導の充実を図る。

具体的な取組

- ① 保健体育科による授業をはじめ、体育的行事、委員会活動や部活指導などを通して、生徒の健康に関する意識を高め、健康な体づくりや生涯スポーツにつながる教育を実践する。
- ※ 部活動は、学校教育活動の一環として行われるものであり、生きる力の育成や豊かな人間性の育成にも大きな意義を持つものである。部活動顧問申し合わせ事項や部活動ガイドラインに沿いながら積極的な指導を推進する。
- ② 健康の保持増進や望ましい生活習慣の実践、飲酒・喫煙・薬物乱用等の有害性について正しい知識を身につけさせ、適切でより良い判断ができるよう指導を徹底する。
- ③ 健康診断、各種保健行事や教科指導、委員会活動などの取組を通じて、けがや病気、事故や災害から自他を守る意識と態度を育む。
- ④ 保健体育科や家庭科の授業や委員会活動などを通して、健康に対する理解を深めるとともに、基本的な生活習慣を整えることで、将来にわたって、健康な生活を送ろうとする態度を養う。

４「小中一貫教育」における９年間の教育目標と目指す子ども像

（１）９年間の教育目標（中学校ブロックの小・中学校で共有）

「21世紀をたくましく生き抜く力（21世紀型能力）の育成」

（２）目指す子ども像（中学校ブロックの小・中学校で共有）

- 主体的に学びに向かう子ども
- 社会の一員として自己の責任を果たす子ども
- 未来に向けて夢や志を持ち、実現へ向けて実践する子ども

(3) 自校の具体的な取組

令和3年度より 九条ブロック小中合同研修会テーマ

「キャリア教育の視点で自校・小小・小中の教育活動をつなぎ、目指す児童生徒の姿に向けて九条中ブロックのベクトルを揃え、校種を超えた一貫性のある教育活動のあり方についての研究」

[研究仮説]

キャリア教育が掲げる基礎的・汎用的能力等を掲げ、教科・領域、学校、校種間を資質・能力でつなぐことで、さらなる一貫性のある教育活動が実践され、児童生徒の「主体性」の育成と「学びの活用と深化」を図ることができる。

① 小中連携行事（生徒体験活動）について

挨拶運動、読み聞かせ活動、施設利用授業体験、中学校合唱コンクール参観、中学校部活動体験、ポスターセッション、校内図工展、九条計算検定

② 小中連携事業（合同研修・授業研究会・会議）について

合同研修会、3校交流会（仮称）、授業研究会、三校校長会・教頭会・管理職会、教務主任会・研究主任会・生徒指導主任会・小中5役会、授業交流

③ 小中合同研修会のねらい

九条中ブロック三校が連携し、小学校から中学校への接続がスムーズに行われるように、児童生徒の実態や指導のあり方等について、小・中学校間の違いを認めあった上で、義務教育9年間で児童生徒を育てる発想のもと、研修テーマや今日的課題について互いに学び合い、互いに理解を深めながら知見を高めることを通して、児童生徒がより効果的に「生きる力」を身に付けられる教育活動の展開や学力向上と指導法の工夫改善を図ることを目的とする。

④ 小中合同授業研究会 本年度の研究主題と研究の重点

「キャリア教育の視点を生かして、自己指導能力を育む指導過程の工夫」

各教科等においてキャリア教育の視点を生かして、自己決定をする場を設けること、自己有用感をもてるようにすること、協働的に取り組む機会をつくることに留意した指導過程を工夫することで、「分かった」「できた」という「学ぶ楽しさ」を実感させることにより、自己指導能力（この時、この場で、どのような行動をとることが適切であるか、自分で判断して行動する力）を育てたい。

研究主題に迫るために、「生徒指導の3機能を生かした場の設定」と「キャリア教育における基礎的・汎用的能力」のつながり、そして、「キャリア教育における基礎的・汎用的能力」から研究の重点を3つに定め、実現するために必要となる具体的な取組方法を考えた。

(4) 小学校・家庭・地域との連携・協働

- 小中の共通目標の実現へ向け、校区2小学校と連携し、教科指導、生活指導、総合的な学習、交流・合同行事など9年間を見通した系統的・継続的な教育活動を推進する。また、保護者・地域を巻き込んだ小中一貫教育を推進し、質的向上と充実を図る。
- 「子どもは地域で育つ」「保護者・地域と共に子どもを育てる」ということを念頭に、学校だけでなく、ホームページを活用した広報活動の推進や学校公開、保護者懇談会の際の保護者・地域への情報提供により、学校の教育方針や活動内容・取組を保護者や地域に発信し、保護者・地域の教育活動への理解・協力・支援につなげる。
- 南区一斉清掃、パパママ体験などの地域貢献活動や体験学習などを通して、地域・保護者との相互理解、地域の一員である自覚を深めるとともに、生徒の自己有用感・自己肯定感の育成を図る。
- 教室整備、教科展示、掲示物、環境美化など、生徒と共に快適な学習環境づくりを推進する。